

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 17	公益目的事業 19
主査名	森本章倫 早稲田大学教授	
研究テーマ	スマートシェアリングシティの実現に向けた課題と展望	
研究の目的：		
スマートシティに関する社会実装が進む中で、データ連携の手法やデータ管理主体の持続性などの課題も多く、スマートシティ政策のマネジメントシステムの構築が求められている。本研究会では、これまでコンパクトシティとスマートシティの融合や、稼働していない資産を効率的に共同利用している都市（Smart Sharing City：スマートシェアリングシティ）について、望ましい都市のあり方を整理してきた。これまでの知見をもとに、スマートシェアリングシティの実現に向けた課題を整理し、今後の展望について議論する。		
研究の経過（4月～3月）：		
研究会は全メンバー参加の形で計4回実施した。まずは、昨年度までの研究成果や議論をまとめ、今年度の論点を討議した。そのうえで、スマートシェアリングシティの課題と展望に対して、社会規範に着目したスマートシェアリングシティの枠組み案を提示した。また、近年着目しているメタバースの動向を調査し、メタバースと実在都市の関りについて議論した。また、スマートシティの発展に資する持続的な都市 OS 運営について整理した。		
研究の成果（自己評価含む）：		
研究の成果は主として以下の3点に要約することができる。		
(1) ポストコロナを想定したコンパクトシティなどの都市政策の動向整理		
スマートシティやコンパクトシティを含めた今後の都市政策のあり方について今後の動向を議論した。そのうえでスマートシェアリングシティが具備すべき基本原則について言及した。		
(2) スマートシティの運用管理の実態と課題		
スマートシティ政策の持続的な実施について、国の取り組み事例や役割と各自治体の課題を討議し、運用上の課題をとりまとめた。また、近年着目されている都市連動型メタバースについて検討した。		
(3) スマートシェアリングシティの課題と展望		
スマートシェアリングシティの定義を社会的な価値を含めて改めて整理し、その実現とそれに寄与する望ましいマネジメントシステムのあり方について提示した。		
今後の課題：		
新しい都市モデルとして「スマートシェアリングシティ」を提案し、その実現に向けた課題を整理した。一方で、社会的なニーズやビジネスモデルとして定着するかについては今後の課題である。		